

静岡県 新型コロナウイルス
【オミクロン株】の罹患後症状
(後遺症) アンケート調査結果
(2022年4月15日時点)

静岡県健康福祉部 新型コロナ対策企画課

今回の調査結果について

対象

静岡県ホームページで2021年12月6日から実施している「静岡県新型コロナウイルス感染症の後遺症についての実態調査【県民向け】」に、2022年2月1日～4月15日に回答した者のうち、1月以降に新型コロナウイルスに感染した(陽性確認された)103人。

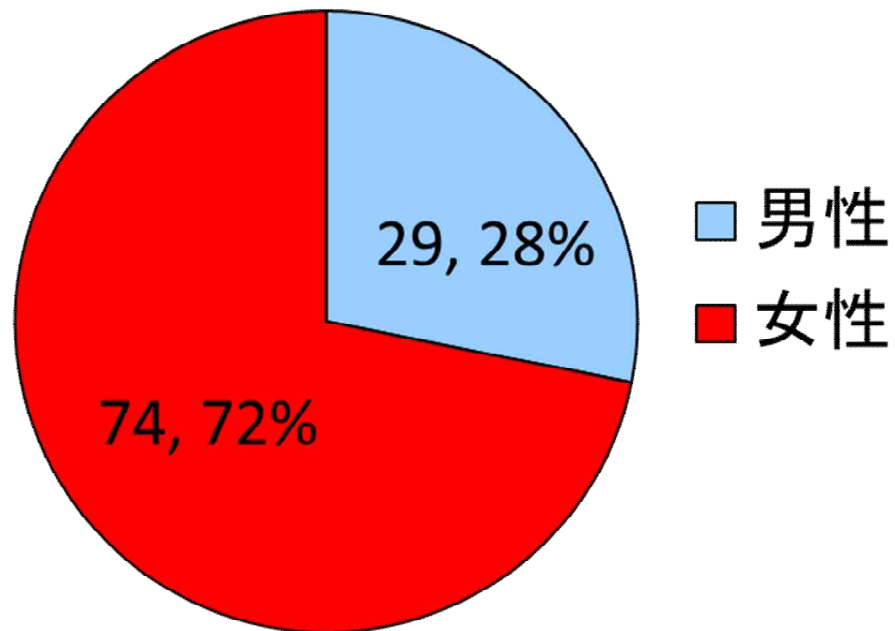
この103人については、感染時期から新型コロナウイルスのオミクロン株に感染したと判断し、オミクロン株の罹患後症状(後遺症)として、回答結果をまとめた。

なお、この103人は罹患後症状(後遺症)の期間が短いため、今後、症状の種類、程度や頻度に変化する可能性があることに注意が必要。

本調査の罹患後症状(後遺症)の定義

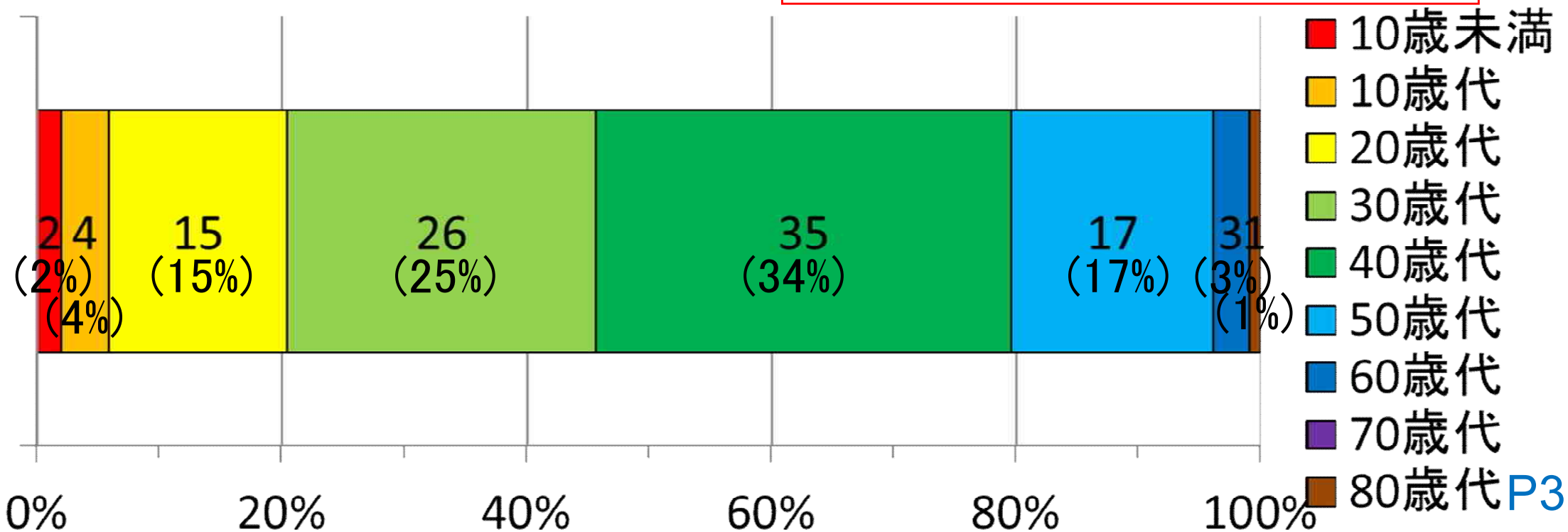
新型コロナウイルス感染症に感染後、4週間以上症状が持続し、その他の疾患では説明がつかないもの

回答者103人の性別と年代

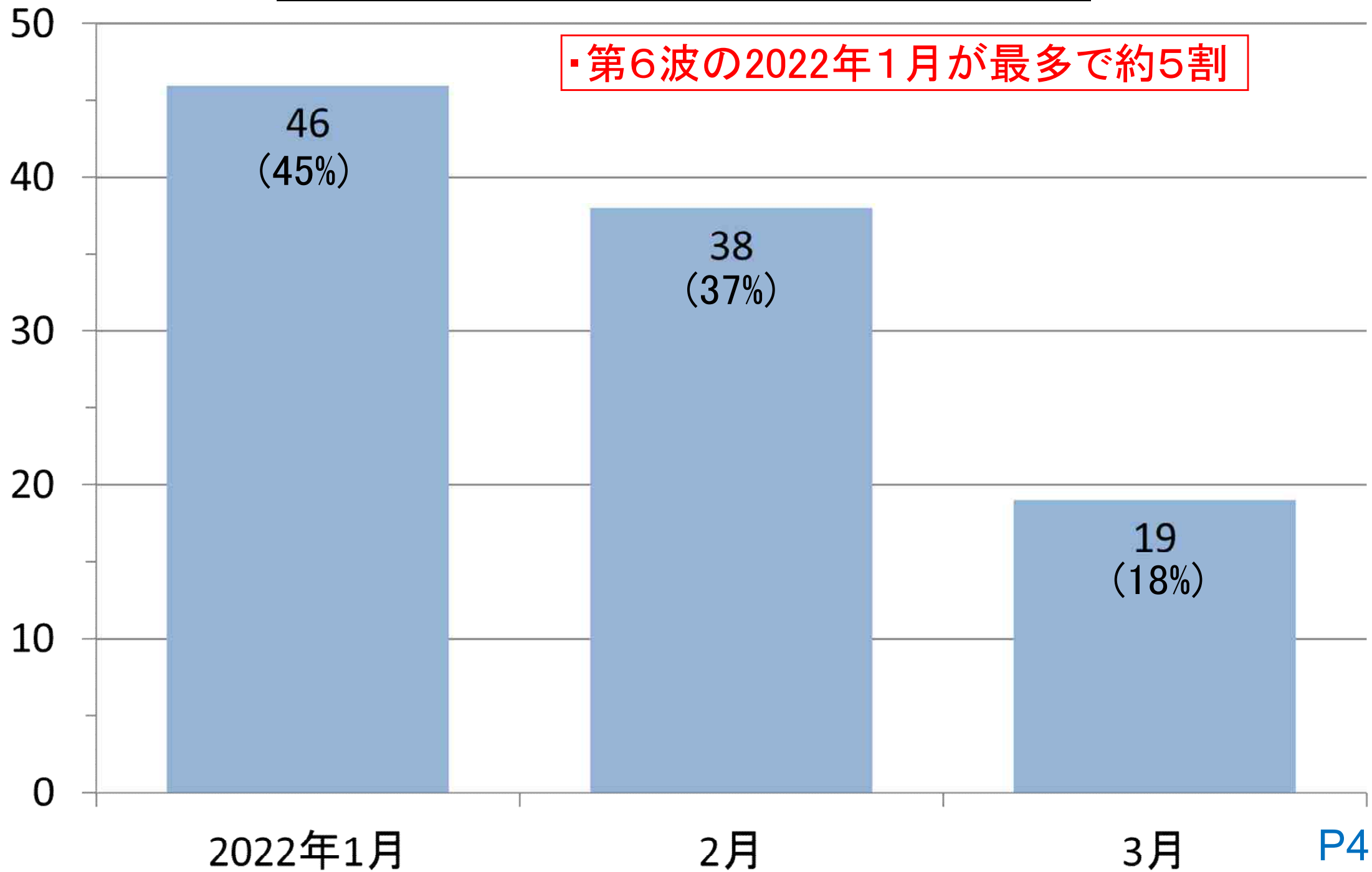


- ・回答言語は、

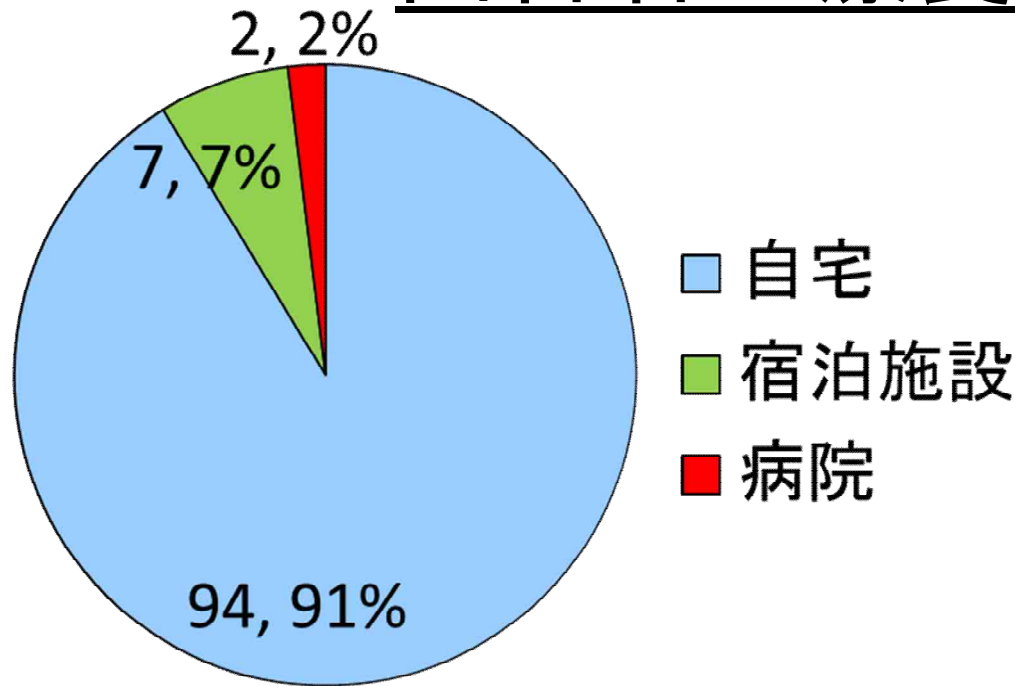
日本語	89人
やさしいにほんご	9人
英語	2人
ポルトガル語	2人
フィリピン語	1人
- ・女性が約7割
- ・40歳代、30歳代、50歳代の順に多く、この3年代で約4分の3



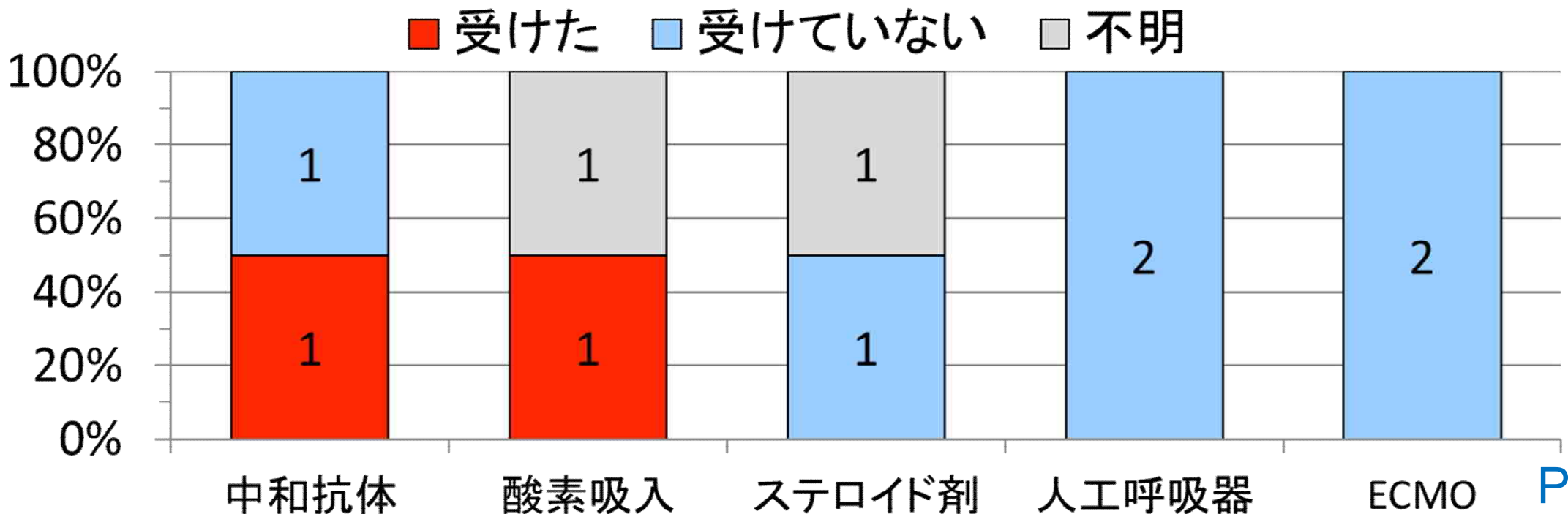
回答者のコロナ陽性確認時期



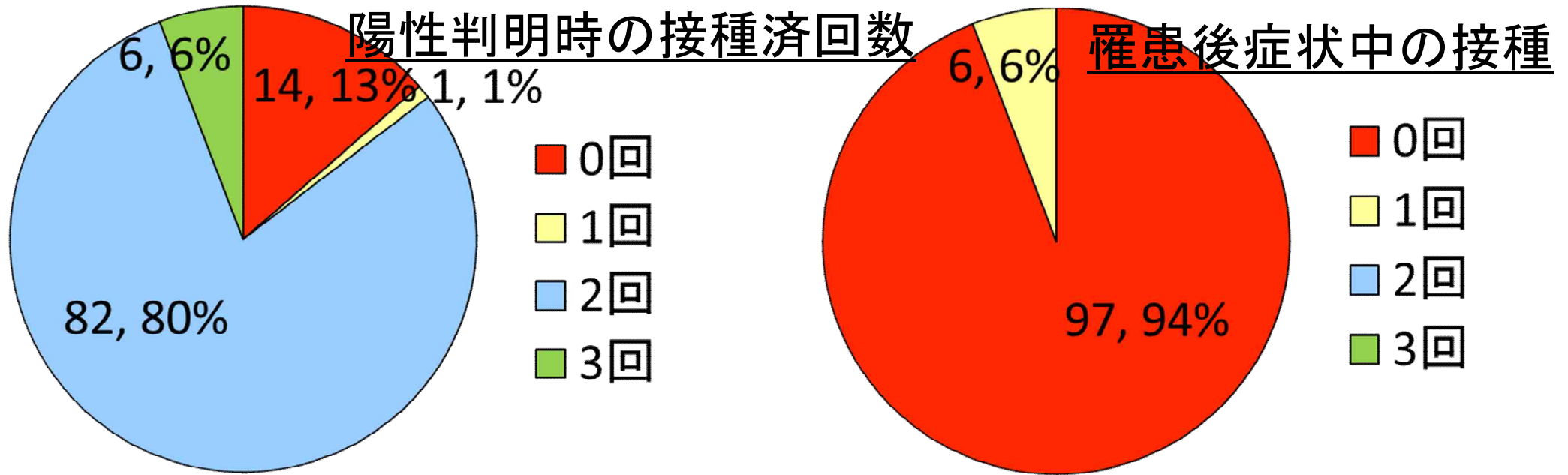
回答者の療養場所と治療内容



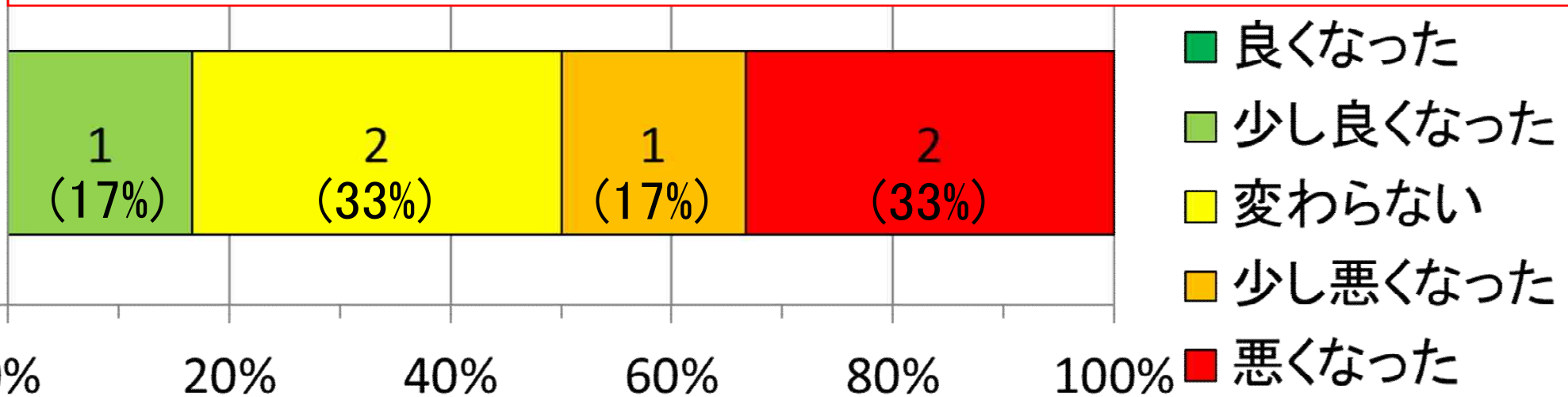
- ・自宅療養が最多で約9割
- ・入院者2人うち、中和抗体療法を受けた人が1人、酸素吸入を受けた人が1人
- ・人工呼吸器やECMOによる治療を受けた人はいなかった



回答者のワクチン接種状況と接種後の罹患後症状の変化



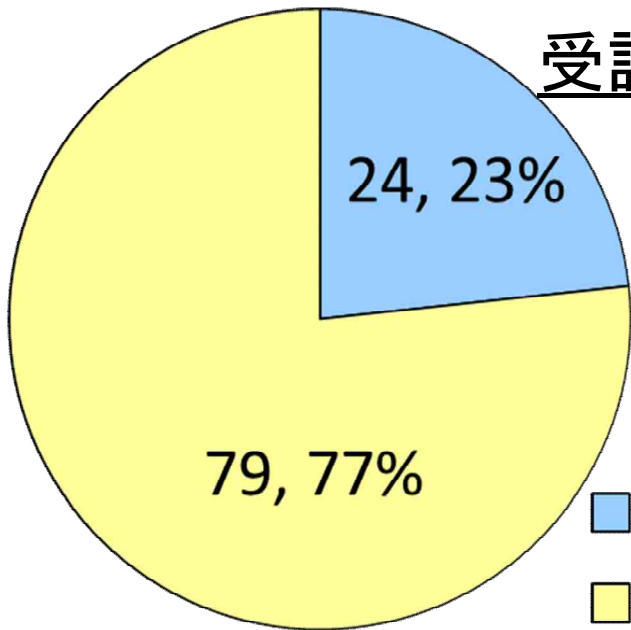
- ・陽性判明時の接種回数は、2回が最多で8割、3回も6人(6%)
- ・罹患後症状のある状況で、1回接種した人が6人(6%)
- ・接種後の罹患後症状の変化は、悪化した人が半数(3人)、改善は1人



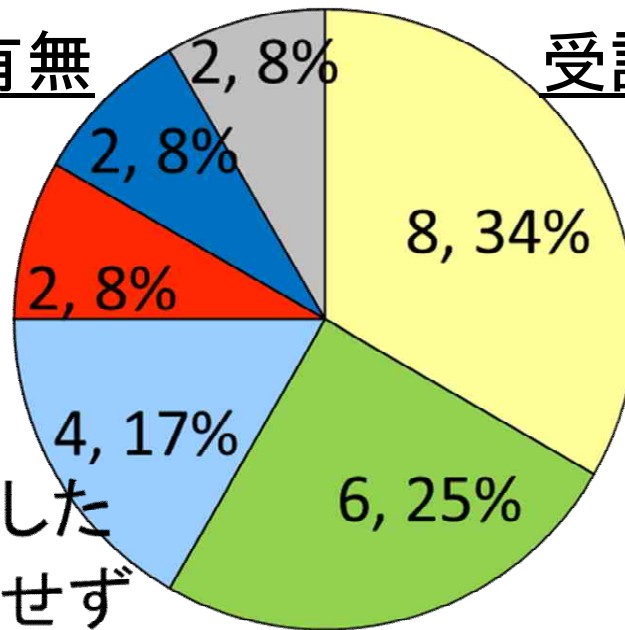
回答者の受診状況

受診の有無

受診した医療機関



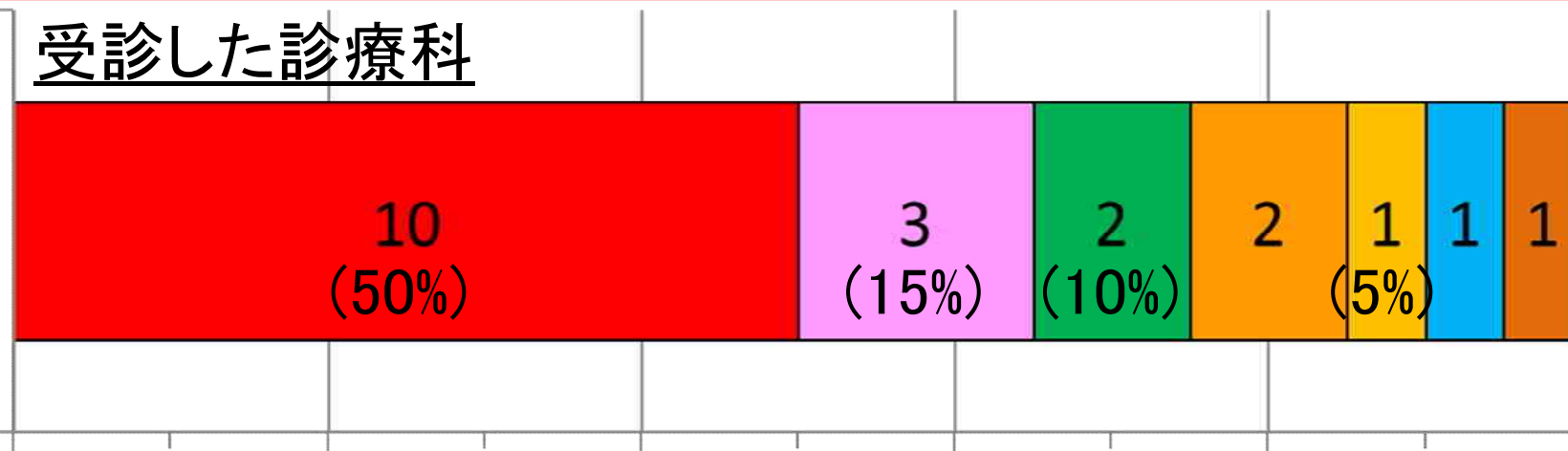
■ 受診した
■ 受診せず



■ かかりつけ医
■ その他の近隣の医療機関
■ 後遺症専門外来
■ コロナを治療した医療機関
■ 陽性の診断を行った医療機関
■ その他(自分で検索、記載なし)

- ・約2割が医療機関を受診し、最多はかかりつけ医で3分の1
- ・受診した診療科は、内科系(内科・呼吸器・循環器)で8割、耳鼻科は1割

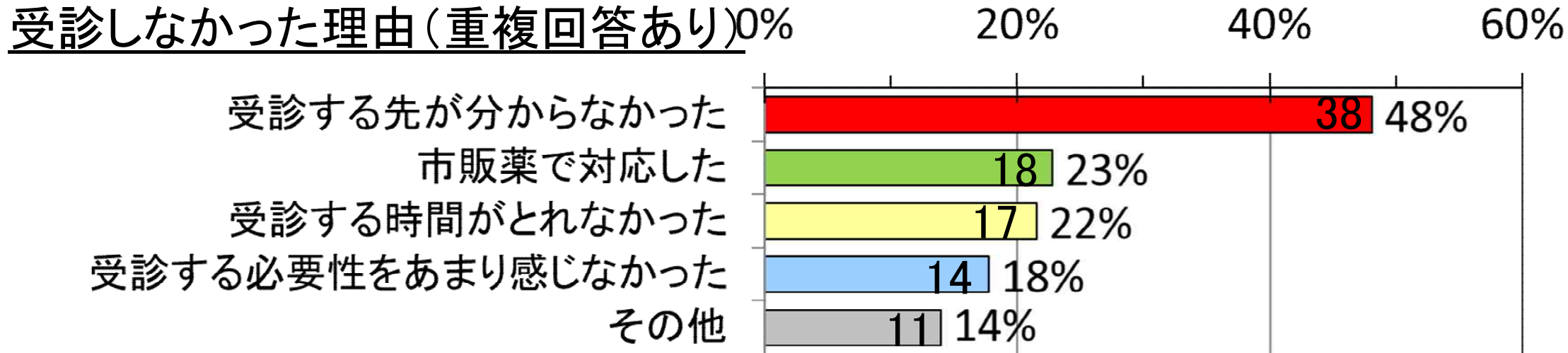
受診した診療科



■ 内科
■ 呼吸器内科
■ 耳鼻咽喉科
■ 脳神経外科
■ 循環器内科
■ 小児科
■ 皮膚科

0% 20% 40% 60% 80% 100%

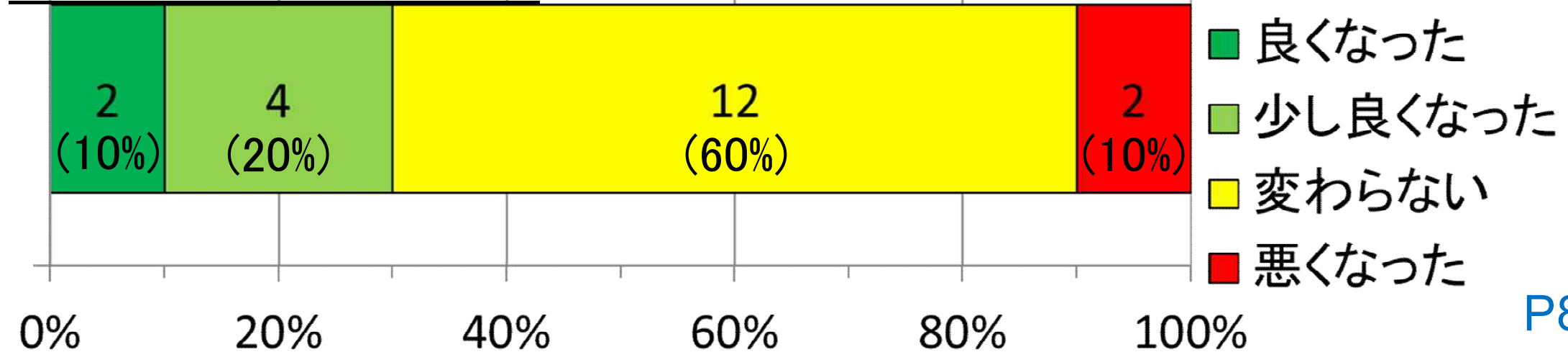
受診しなかった理由、受診した後の変化



その他; 受診するかどうか様子見(6人)、罹患後症状(後遺症)と分らず(2人)
病院が遠い(1人)、受診する前に軽快(1人)、よい病院がない(1人)

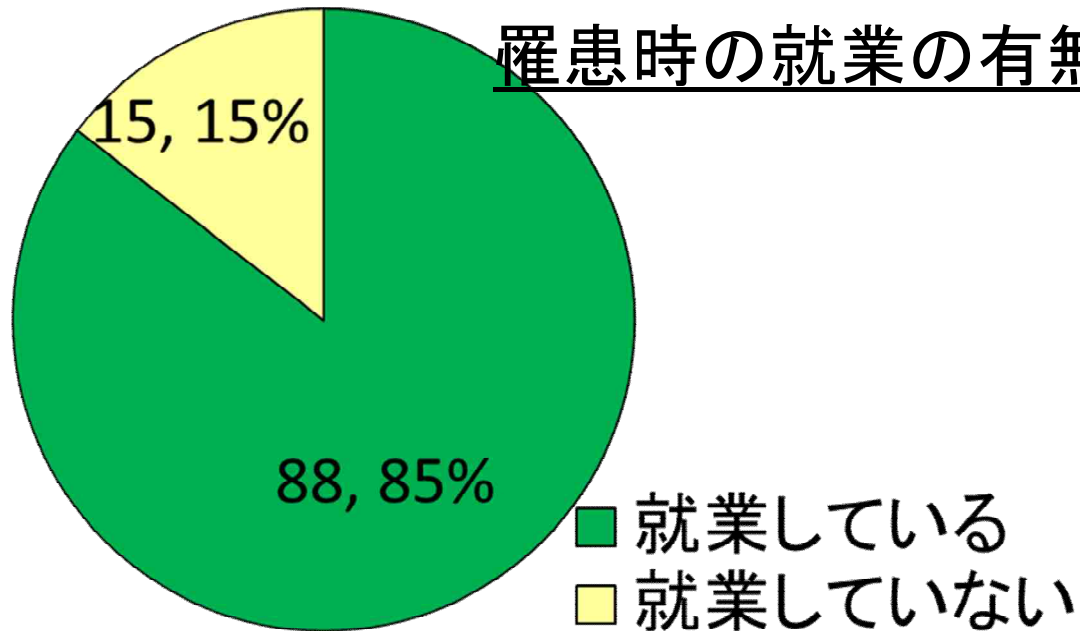
- ・約5割が受診先が分からず、受診しなかった
- ・受診後、改善したのは3割で、7割は改善しなかった

受診した後の症状の変化

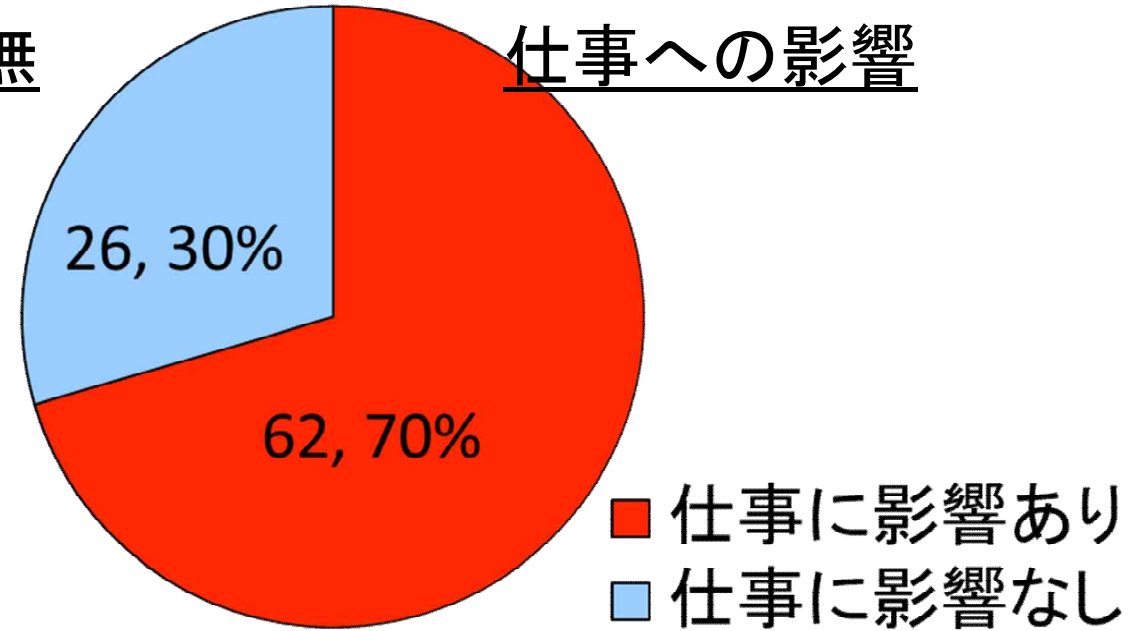


罹患後症状の仕事への影響

罹患時の就業の有無

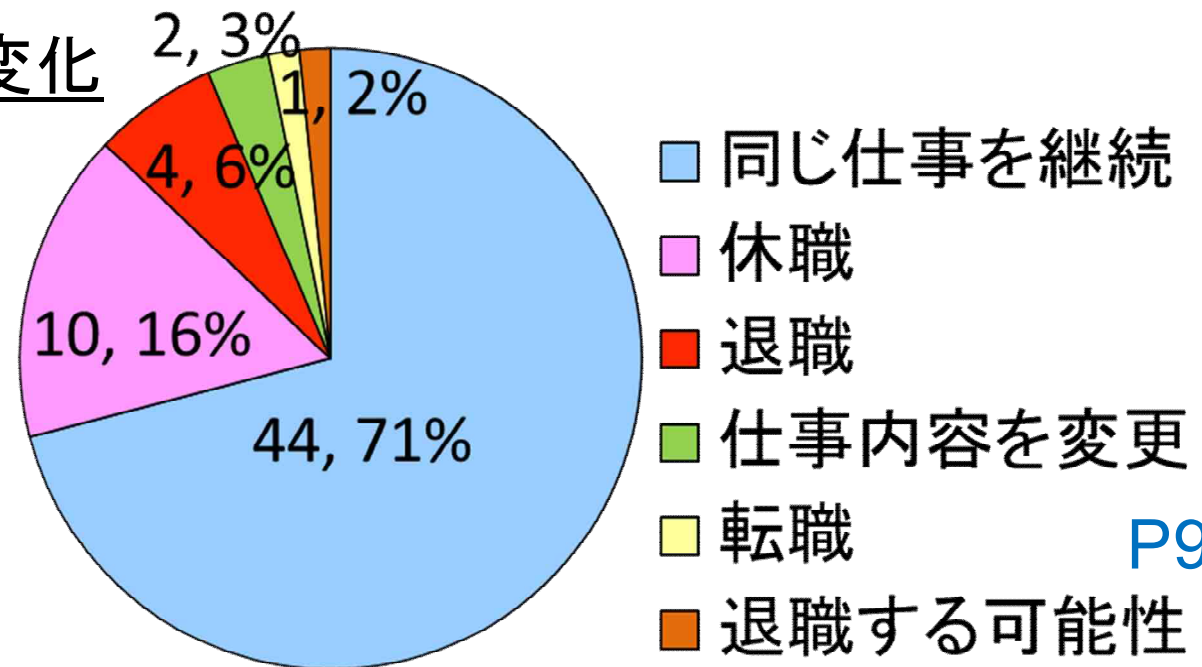


仕事への影響



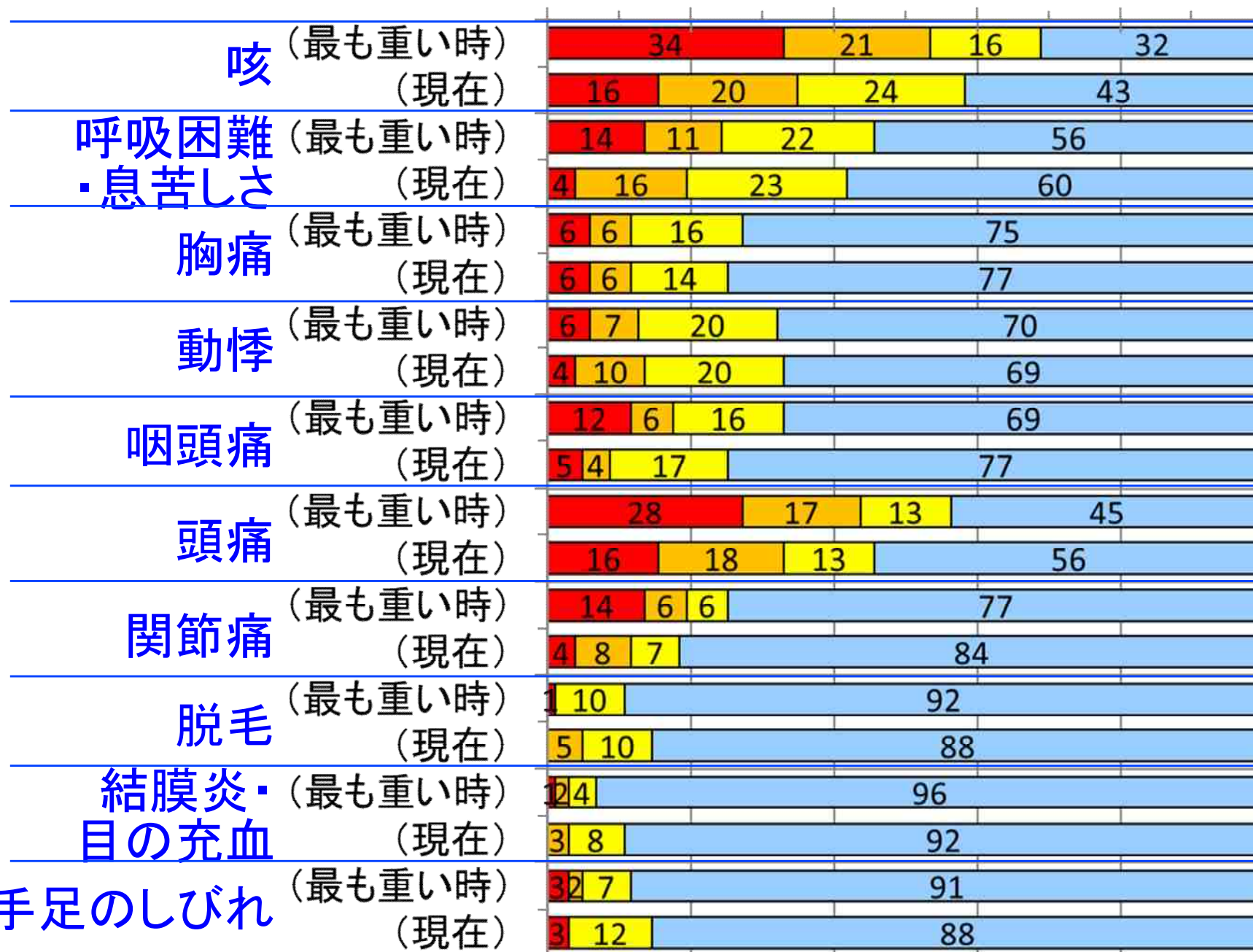
罹患後症状による仕事の変化

- ・感染時就業していた人のうち7割で、罹患後症状による仕事への影響があった
- ・仕事に影響があった人のうち約3割が仕事の内容を変えたり、休職・退職・転職をしていた



症状のつらさの変化(最も重い時と現在の症状)①

0% 20% 40% 60% 80% 100%



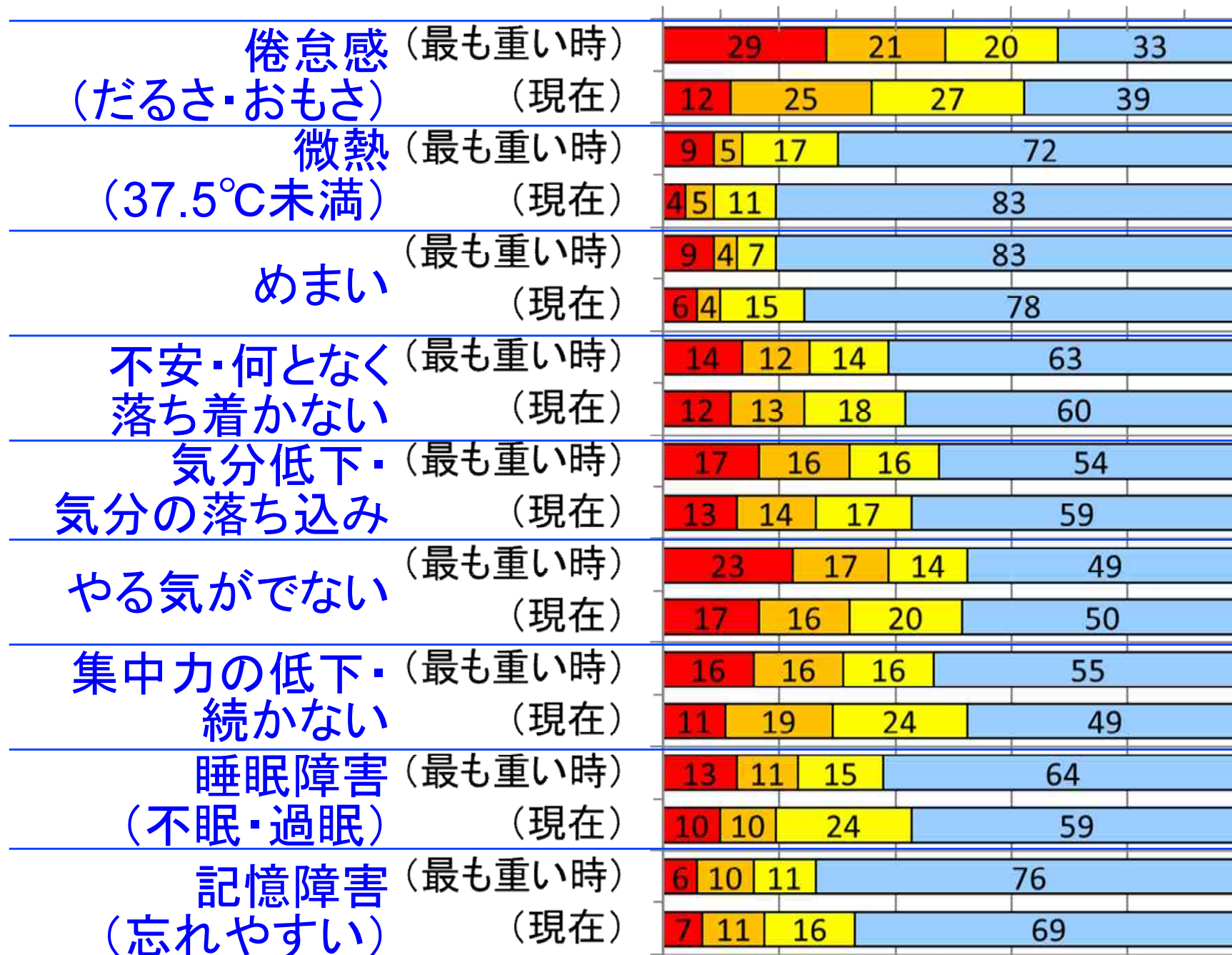
- 非常に辛い
- 辛い
- やや辛い
- 症状なし

咳、息苦しさ、動悸、頭痛は、症状のつらさの改善が乏しく、回答時も3～6割につらさが残る

(バーの数字は人数)

症状のつらさの変化(最も重い時と現在の症状)②

0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 非常につらい
- つらい
- ややつらい
- 症状なし

倦怠感、不安、気分低下、やる気が出ない、集中力低下、睡眠障害、記憶障害は、症状のつらさの改善が乏しく、回答時も3~6割につらさが残る

(バーの数字は人数)

症状のつらさの変化(最も重い時と現在の症状)③

0% 20% 40% 60% 80% 100%

嗅覚障害

(最も重い時)



(現在)



味覚障害

(最も重い時)



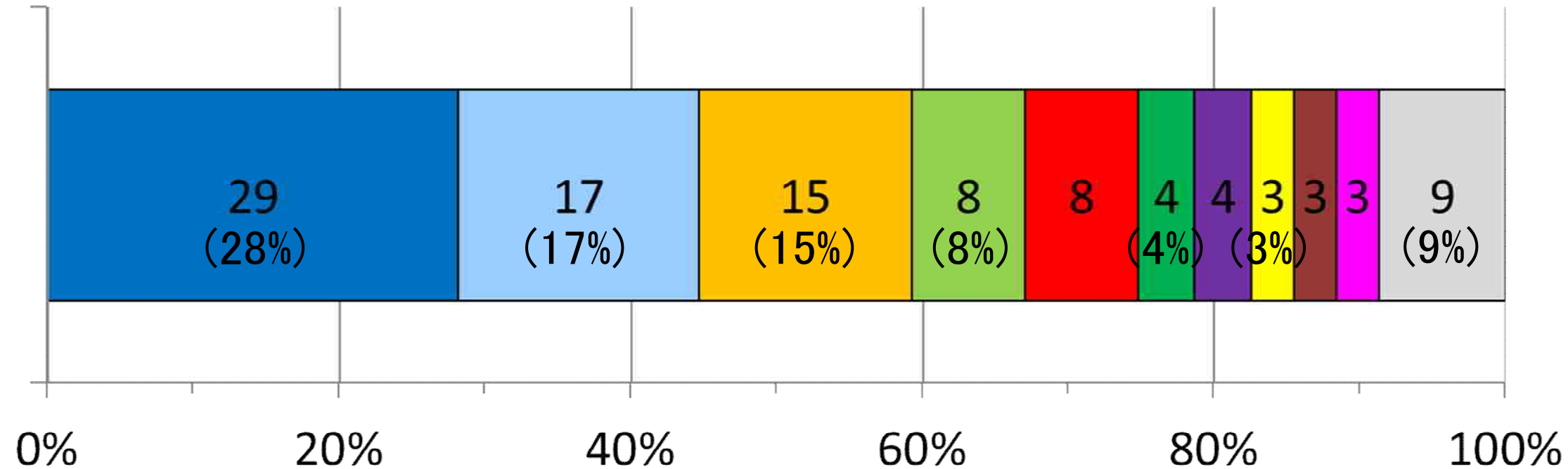
(現在)



- 全く分からない
- 分かるにおい・味もある
- 急に变なおい・味がする
- 感じるが弱い
- 元に戻った
- 症状なし

- ・嗅覚・味覚障害は、最も症状が重い時には全体の4割弱に達する
- ・嗅覚・味覚障害は、全体の約3割で回答時も続いている

回答者の一番つらかった症状



- 咳
- 味覚障害
- 関節の痛み
- 咽頭痛

- 頭痛
- 呼吸困難・息苦しさ
- めまい
- その他

- 倦怠感
- 嗅覚障害
- 不安・落ち着かない

記憶障害、睡眠障害、胸痛
各2人
気分低下、微熱、結膜炎(目の充血)
各1人

一番つらかった症状としては、咳、頭痛、倦怠感が多かった

まとめ

1. 2022年2月1日～4月15日の回答者のうち、新型コロナウイルスの陽性が2022年1月以降に確認され、オミクロン株の感染と推定される103人のうち、女性が約7割を占めていた。年代は40歳代、30歳代が多く、この2年代で約6割を占め、40歳代以下の若い世代で約8割を占めていた。
2. 陽性確認時期は、第6波の2022年1月が最多で約5割だった。
3. 療養場所は、自宅療養が最多で約9割で、入院した人は2人だった。
4. 陽性判明時のコロナワクチン接種済回数は2回が最多で約8割だったが、3回も6人(6%)いた。罹患後症状のある状況で接種した人は6人で、接種後の罹患後症状の変化は、改善が1人、不変が2人、悪化が3人であった。
5. 約2割が医療機関を受診し、その3分の1はかかりつけ医であり、受診した診療科は、内科系が最多で約8割、耳鼻科は約1割だった。受診後の症状改善は3割で、7割は改善せず。一方、受診しなかった人の約5割が受診先が分からず受診していなかった。
6. 罹患時就業していた人の7割で罹患後症状による仕事への影響があり、そのうち約3割が仕事の内容を変えたり、退職・休職・転職したりしていた。
7. 咳、息苦しさ、動悸、頭痛、倦怠感、不安、気分低下、やる気が出ない、集中力低下、睡眠障害、記憶障害は、最も重い時と較べて回答時の症状のつらさの改善が乏しく、回答時に3～6割につらさが残っていた。
8. 嗅覚・味覚障害は、最も症状が重い時には全体の4割弱が経験し、全体の約3割で回答時も続いていた。
9. 一番つらかった症状は、咳が約3割で最多で、次いで頭痛と倦怠感が多かった。